



平成30年度 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進にかかる施策方針

まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進を目的として、平成30年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成31年3月

教育委員会事務部長 軽 部 利 宣
まなべの館館長 浮 山 英 穂

1 総括

- 1 中河小学校パソコンルームの改修および立待小学校駐車場の拡張工事、惜陰小学校・進徳小学校・鯖江中学校・東陽中学校のトイレ改修を行うなど、学校施設の長寿命化と教育環境の向上を図りました。また、神明公民館の耐震改修工事が完成し、H31～H32に予定している文化センター耐震改修工事のための実施設計を行いました。
- 2 生涯学習・まちづくり活動を支援する場としての公民館等の連携強化として、公民館長会等への出席や事務改善等を行いました。また、社会教育委員会においては、地域課題解決に向け公民館を拠点とした人づくり、つながりづくり、地域づくりの推進について提言書をまとめました。成人式の実施に当たっては、市連合青年団のメンバーが率先して成人式実行委員会での調整役を担うなど、青年活動の活発化を図りました。
- 3 開学40周年を迎えた高年大学において、年間を通して記念行事を行い、高齢者が健康でいきいきと勉学に励むとともにクラブ活動や地域貢献にも積極的に取り組みながら交流を深めました。
- 4 ふるさと学習を通じた郷土を愛する心の育成に努めました。地域の方との連携を通して、地域の歴史を知り、文化・自然に親しむことで郷土のすばらしさを実感するとともに、産業体験や職場体験、眼鏡デザイン実習、ものづくり博覧会参加等を通して、本市のものづくり産業に対する理解を深めるとともに、その継承・発展の大切さに気付き、ふるさと鯖江を発展させようとする意欲や態度の育成に努めました。
- 5 生きる力（確かな学力、豊かな心、たくましい体）を育む学校教育の推進に努めました。授業のユニバーサルデザイン化・ICTの積極的な活用による授業改善を進めながら、確認テストや新聞を活用し学力向上に努めるとともに、外部講師派遣による児童生徒の体力向上にも努めました。また、プログラミング教育や道徳教育の授業実践に取り組み、新学習指導要領実施に向け、準備を進めました。さらに、関係機関と連携し、防災教育推進や子どもの貧困問題にも取り組みました。
- 6 文化の館では、多様化する市民ニーズに応え、乳幼児から高齢者まであらゆる層の市民が、豊かな心を育めるよう知の拠点づくりとしての図書資料の収集を図りました。また、ライブラリーカフェの開催など市民と協働で開催することにより、気楽に足を運んでもらえるよう図書館の利用促進を図りました。

- 7 まなべの館の企画展や鯖江市美術展等の開催により、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会を提供しました。また、古文書調査や兜山古墳の環境整備実施計画の策定、文化財の指定、歴史講座の開催等により文化遺産の保存・活用を図るとともに、ふるさと学習を推進しました。
- 8 福井国体・障スポの運営にあたっては、2度の台風に見舞われながらも、競技スケジュールの調整や会場内外の設営物管理、宿泊・輸送業務などについて迅速・適確に対応し、大きなトラブルもなく円滑に競技を進行することができました。
また、各競技会場でのボランティアスタッフによる来場者へのおもてなしや振る舞い、練習会場も含めた花プランター、のぼり旗での歓迎装飾など、大会関係者、実施本部、関係団体、市民が一体となって、鯖江ならではの魅力溢れる大会として開催することができました。
- 9 鯖江市スポーツ推進委員や鯖江市スポーツ協会など関係機関が行うスポーツ振興事業、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を中心とした開放学校の運営、指定管理を含めたスポーツ施設の適切な維持管理など、より充実したスポーツ環境の提供に努め、全ての市民が「こころ」の豊かさと「からだ」の健康を実感できる「鯖江型」生涯スポーツ社会の推進を図りました。

2 課題・今後の方向性

- 1 今後、学校施設の大規模な改築が困難な状況を踏まえ、雨漏り対策等屋根および床等建物構造部の計画改修ならびに、特別教室へのエアコン整備や普通教室等整備済エアコンの更新を、国の補助制度を活用しながら計画的に進め、施設の長寿命化と教育環境の向上を図る必要があります。
- 2 公民館および併設の体育館等社会教育施設は、生涯学習の場としてだけでなく、近年、まちづくり・自治振興・防災・福祉・環境等の拠点施設としての重要性が増し、災害時や緊急時の避難所としての高い安全性等が求められており、今後、施設の特定天井や照明器具等の耐震補強を図る必要があります。
- 3 鯖江市が世界に誇る産業への理解を深めたり、関心を高めたりするものづくり教育を推進しながら、郷土への自信と誇りを育むとともに、その継承・発展の大切さに気付かせる、ふるさと教育をさらに充実させる必要があります。また、ITのまち鯖江にふさわしく、ICT機器を活用した教育の取組みや設備の充実、プログラミング教育への対応など、ICT教育を計画的に推進していく必要があります。
- 4 福井しあわせ元気国体・全国障害者スポーツ大会で醸成したスポーツ振興の流れを、本市で開催した競技に限らず、維持・拡充するために必要となる施設の整備を図っていくこと、また2020東京オリンピック（体操）事前合宿の開催に向け、必要となる関連ニーズを的確に把握し、その財源の確保に努めることが課題となっています。

3 重点的に進める項目の取組結果

<取組項目>	<取組結果>
<p>1. 施設の計画的整備・改修</p> <p>学校施設の整備や改修、維持補修を計画的に行うとともに、社会教育施設の耐震化など適切な管理による施設の長寿命化、安全・安心の確保および利便性の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小学校施設整備 2校 (パソコンルーム改修、駐車場拡張) ◆ 小・中学校のトイレ改修 4校 (洋式化、バリアフリーの推進) ◆ 社会教育施設(公民館、文化センター等)の耐震化(工事・実施設計等) 2館 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>パソコンルームの改修やトイレの洋式化など学校施設の長寿命化と教育環境の向上を図りました。神明公民館の耐震改修工事が3月に完了しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小学校施設整備 2校[A] (パソコンルーム改修、駐車場拡張) ◆ 小・中学校のトイレの改修 4校[A] (洋式化、バリアフリーの推進) ◆ 社会教育施設(公民館、文化センター等)の耐震化(工事・実施設計等) 2館[A]
<p>2-1. 公民館等との連携強化</p> <p>生涯学習・まちづくり活動を支援する場である公民館等との情報共有に努め連携強化を図るとともに、地域課題の解決に向けた取り組み事例の情報収集、発信を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 12回 ◆ 地域課題の解決に向けた取り組み事例の発信回数 3回 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>公民館長会や職員会議への出席ならびに関係課合同で地域支え合い推進員へのヒアリングを実施するなど、連携強化を図りました。社会教育研究集会において地域課題解決に向けた取組事例をパネル展示するなど、情報発信を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館連絡協議会等への参加回数 12回[A] ◆ 地域課題の解決に向けた取り組み事例の発信回数 3回[A]
<p>2-2. 地域の教育力の向上</p> <p>地域の小学生を対象に地域住民との交流を通して公民館等で合宿通学事業等を行うことにより、地域の子どもは地域で育てると意識の醸成や地域の教育力の向上を図ります。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館の利用者数 50万人 ◆ 公民館合宿通学事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加者数 450人 ・ボランティアの参加者数 1,200人 ◆ 公民館食育事業の開催 20回 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 40回 (地区公民館) 	<p>【成果等】 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>神明、河和田公民館とも耐震改修工事により利用者が減少しました。また、公民館合宿通学事業は大雨の影響で2地区が中止となり、参加者数は減少しましたが、実施された地区では地域住民と子どもたちの交流を通して、地域の子どもは地域で育てると意識の醸成や地域の教育力の向上を図りました。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館の利用者数 <u>39万人[C]</u> ◆ 公民館合宿通学事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加者数 394人[B] ・ボランティアの参加者数 862人[C] ◆ 公民館食育事業の開催 <u>22回[A]</u> ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催 <u>33回[B]</u> (地区公民館)
<p>2-3. 地域における青年活動の推進</p> <p>各地区公民館で開催する青年交流事業を契機として、青年たちの相互理解や地域理解を深めるとともに、地域の活性化やまちづくりにつながるよう、地域における青年活動の活性化を推進し、情報発信に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域青年交流事業の参加者数 7,000人 ◆ 地域青年交流事業の情報発信回数 3回 ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 27,000人 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>各地区公民館での青年交流事業を開催のほか、ユールさばえにおける早稲田大学生との連携事業、成人式実行委員会と連合青年団のメンバーの関わりなど、青年たちの相互理解や地域理解を深め、地域の活性化やまちづくりにつながる取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域青年交流事業の参加者数 6,248人[B] ◆ 地域青年交流事業の情報発信回数 3回[A] ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 <u>28,000人[A]</u>
<p>3. 高年大学の活性化</p> <p>開学40周年を迎え、健康長寿および社会貢献を目的として、カリキュラムを充実するとともに、大学の活動を地域の諸活動と連携するため、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高年大学の利用者数 33,000人 ◆ 健康・体育関連授業の開催 60回 ◆ 社会貢献関連授業の開催 15回 ◆ ふるさと講座の開催 12回 ◆ 公開講座の開催 23講座 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>開学40周年を迎え、健康長寿および社会貢献を目的として更なるカリキュラムの充実に努めました。また、高年大学が実施する全員学習、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催することで、大学と地域の諸活動との連携を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高年大学の利用者数 <u>33,050人[A]</u> ◆ 健康・体育関連授業の開催 75回[A] ◆ 社会貢献関連授業の開催 19回[A] ◆ ふるさと講座の開催 13回[A] ◆ 公開講座の開催 28講座[A]

<取組項目>	<取組結果>
<p>4-1. 文化の館における図書資料の充実</p> <p>多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館の入館者数 30万人 ◆ 図書の貸出冊数 45万冊 ◆ ビジネス・起業支援図書の貸出冊数 3,000冊 ◆ 図書リクエストへの対応率 100% 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>多様化する市民のニーズに応えるため、知的財産である図書資料の収集を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館の入館者数 28万人[B] ◆ 図書の貸し出し冊数 39万冊[B] ◆ ビジネス支援図書の貸出冊数 2,864冊[A] ◆ 図書リクエストへの対応率 97%[A]
<p>4-2. 市民との協働事業の推進</p> <p>市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶライブラリーカフェを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供します。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨します。さらに、「えきライブラリー」との連携支援を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「ライブラリーカフェ」の開催 12回 600人 ◆ 「カフェコンサート」の開催 2回 300人 ◆ 「えきライブラリー」の貸出冊数 1,200冊 ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,300冊 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>市民協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶライブラリーカフェを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供しました。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供することで、音楽のある生活の豊かさを推奨しました。さらに、「えきライブラリー」との連携支援を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「ライブラリーカフェ」の開催 12回 559人[B] ◆ 「カフェコンサート」の開催 2回 293人[A] ◆ 「えきライブラリー」の貸出冊数 1,010冊[B] ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,086冊[B]
<p>4-3. 子どもの読書活動支援の推進</p> <p>未来を担う子どもたちの心を培うため、対象年齢別に読書支援イベントを実施します。学校、家庭、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核として、図書ボランティアの育成に努め、学校図書館を支援します。また、読書機会が極端に減少する中高生を対象に会議室を学習室として開放し、読書活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんとおぼんひろの広場」の開催 12回 200人 ・「絵本とよちよち1・2・3」の開催 12回 200人 ◆ 学校図書館支援センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各15回 全中学校 各3回 ・こども読書感想文講座の参加者数 1回 130人 ◆ 「会議室（学習室）中高生開放Day」の開催 12日 300人 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>対象年齢別に、未来を担う子どもの読書支援イベントを実施しました。また、学校、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核とし、学校図書ボランティアの育成に努め子どもの読書活動支援を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ こどもの読書支援イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「あかちゃんと絵本のひろば」の開催 12回 260人[A] ・「絵本とよちよち1・2・3」の開催 12回 125人[B] ◆ 学校図書館支援センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各17回[A] 全中学校 各5回[A] ・こども読書感想文講座の実施 1回 155人[A] ◆ 「会議室（学習室）中高生開放Day」の開催 27日 564人[A]
<p>5-1. ものづくりを核としたふるさと教育(学習)の推進</p> <p>ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材を育成する。そのために、ゲストティーチャーによる講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験においてものづくりに関わる企業・事業所の受入人数の増加を目指し、またデザイン実習などに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校各2回 ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に各1回 ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回 ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回 ◆ 職場体験におけるものづくりに関わる企業・事業所での体験者数 全中学校2年生の10% (699人中70人) 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しました。そのために、ゲストティーチャーによる講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験においてものづくりに関わる企業・事業所の受入人数の増加を目指し、またデザイン実習などに取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校各2回[A] ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に各1回[A] ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回[A] ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に各1回[A] ◆ 職場体験におけるものづくりに関わる企業・事業所での体験者数 全中学校2年生の12% [A] (712人中89人)

5-2. ふるさと学習の推進

先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学び、また、体験することにより、ふるさとへの愛着と誇りを持てるようふるさと学習に取り組みます。

- ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 40回<再掲> (地区公民館)
- ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人 (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

【成果等】 目標を達成しました。

各地域の歴史や文化に関する講座や体験イベントを多数開催し、ふるさとの素晴らしさを再認識するとともに、愛着と誇りを持てるようふるさと学習に取り組みました。

- ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 85回<再掲>[A] (地区公民館)
- ◆ ふるさと学習の参加者数 2,786人[A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

6-1. 基礎学力の定着・新学習指導要領実施に向けた環境整備

基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上を目指します。また小学校での英語科・外国語活動では、国際理解を進めるために、外国人講師の英会話による授業を通して、国際人として成長する基礎を養い、外国語に対する感覚を磨く学習を支援します。さらに、小中学校でクラブ活動・授業・部活動をそれぞれ活用し、プログラミング教育を実施します。

- ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校各1回
- ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校各2回
- ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校各1回
- ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 全小中学校15校
- ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校各1回
- ◆ 外国人講師による授業の実施 小学3・4年生 18回 小学5・6年生 35回
- ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 90.0%、中学3年生 86.0%

【成果等】 目標を達成しました。

基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、新学習指導要領実施に向けてICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上を目指します。また小学校での英語科・外国語活動では、国際理解を進めるために、外国人講師の英会話による授業を通して、国際人として成長する基礎を養い、外国語に対する感覚を磨く学習を支援します。さらに、小中学校でクラブ活動・授業・部活動をそれぞれ活用し、プログラミング教育を実施しました。

- ◆ 市独自の確認テストの実施 全小学校各1回[A]
- ◆ ICT機器を活用した公開授業の実施 全小中学校各2回[A]
- ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 全小中学校15校[A]
- ◆ 教職員プログラミング研修の実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ 外国人講師による授業の実施 小学3・4年生 18回[A] 小学5・6年生 35回[A]
- ◆ 学校が楽しいと思う児童・生徒の割合 小学6年生 93.5%、中学3年生 94.0%[A]

6-2. 体力の向上・目の健康(眼育)・防災教育・食育の推進

学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取り組みを推進します。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めます。

また、子どもたちの健全な心身の成長のため、食育の推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めます。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食畑の活用を図りながら、地場産(鯖江産)野菜等の使用率の向上を目指します。また、健康面により配慮した学校給食を提供します。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図ります。

- ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校各1回
- ◆ 目の健康(眼育)に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校各1回
- ◆ 防災教育授業の実施 全小中学校各1回
- ◆ 朝食摂取率 100%
- ◆ 学校給食の食育月間(6月・11月)における市内産食材平均使用率 30%<再掲>
- ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日(鉄分強化メニュー)・歯っぴーの日(かみごたえのあるカルシウム強化メニュー)の実施 全小学校各11回
- ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議の開催 2回

【成果等】 目標を達成しました。

学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図りながら児童生徒の体力の向上を目指すとともに、目の健康につながる取り組みを推進しました。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めました。

また、子どもたちの健全な心身の成長のため、食育の推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めました。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食畑の活用を図りながら、地場産(鯖江産)野菜等の使用率の向上を目指しました。また、健康面により配慮した学校給食を提供しました。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図りました。

- ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校各1回[A]
- ◆ 目の健康(眼育)に関するDVDを活用したビジョントレーニングの実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ 防災教育授業の実施 全小中学校各1回[A]
- ◆ 朝食摂取率 98%[A]
- ◆ 学校給食の食育月間(6月・11月)における市内産食材平均使用率 31%<再掲>[A]
- ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日(鉄分強化メニュー)・歯っぴーの日(かみごたえのあるカルシウム強化メニュー)の実施 全小学校各11回[A]
- ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議の開催 2回[A]

7-1. 文化財の調査、保存、啓発の推進

貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるとともに、優れた伝統芸能や技術を継承する市民や団体をサポートし、文化遺産を後世に引き継いでいくための事業を推進します。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業展開を図ります。

- ◆ 市HP（文化財関係）への訪問者数 600人
- ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者 200人
- ◆ 文化財現地解説会等の参加者数 1,000人

【成果等】 目標を達成しました。

貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるための文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進しました。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業として、出前講座・文化財説明会等を開催し、多数の参加者を得ました。

- ◆ 市HP（文化財関係）への訪問者数 615人[A]
- ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 209人[A]
- ◆ 文化財現地解説会等の参加者数 1,090人[A]

7-2. 文化活動への参加と、豊かな心を育む文化のまちなちの推進

郷土の歴史・伝統・芸術文化に身近にふれることにより、自信と誇りの持てるまちづくりを創造するとともに、市民や子どもたちの郷土に対する愛着心の醸成を図り、ふるさと学習の推進に努めます。

- ◆ 鯖江市美術展の開催
出品数 450点 来場者数 8,000人
気軽にアート展出品数 4,800点
- ◆ ふるさと学習の参加者数 2,000人<再掲>
(まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

【成果等】 目標を概ね達成しました。

市民の文化活動への参加を図り、郷土に対する愛着と誇りを継承して豊かな心を育む文化事業を推進しました。また、子どもたちが様々な文化芸術に触れるとともに自らが主体的に取り組み、子どもの時から豊かな感性や表現力、創造性を育むことができるよう、文化芸術に直接触れる機会の充実に努めました。

- ◆ 鯖江市美術展の開催
出品数 377点 来場者数 8,009人[B]
気軽にアート展出品数 4,827点[A]
- ◆ ふるさと学習の参加者数 2,786人<再掲>[A]
(まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、出前講座等)

7-3. まなべの館を活用した文化活動への参加と、文化に触れる機会の提供

登録博物館であるまなべの館を活用して、市民が広く芸術・文化にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会の提供を図ります。

博物館・美術館活動の中核をなす企画展開催事業を通して、市民に親しまれ、愛されるミュージアムを目指し、市の芸術・文化振興と歴史資料の公開・活用を目的として企画展を開催します。また、“ものづくり”のまち鯖江における眼鏡、繊維、漆器などの特色ある地域資源を有効的に活用した事業として全国レベルで活躍している作家の作品にふれることができる企画展や幕末明治福井150年博の一環として幕末明治の鯖江を紹介する特別展示を開催し、芸術・文化・郷土史とのふれあいを通じて、心身ともにバランスの取れた子どもたちの育成、高齢者の生きがい向上など幅広い世代が学び、遊び、楽しめ、親しみ、わかりやすい当館ならではの特色のある事業の推進を図ります。登録博物館であるまなべの館を活用して、市民が広く芸術・文化にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会の提供を図ります。

- ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 7,000人
(特別展示「幕末維新と鯖江藩」、企画展「コシノヒロコ展—COLORS—」、「あみきやら横丁inさばえ」)
- ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 25,000人

【成果等】 目標達成にはいたりませんでした。

“ものづくり”のまち鯖江における眼鏡、繊維、漆器などの地域資源を有効的に活用した事業として全国レベルで活躍している作家の作品にふれることができる企画展や地元で手仕事を携わる作家を紹介する企画展、また、幕末明治の鯖江を紹介する幕末明治福井150年博の特別展示を開催し、市民の文化意識と郷土に対する愛着心の高揚に努め、多くの来館者を集客できました。また、創造空間事業では、文化活動発表の場として多くの市民が利用、鑑賞、交流し、まなべの館の有効活用を図りました。

- ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 17,058人[A]
(特別展示「幕末維新と鯖江藩」、企画展「コシノヒロコ展—COLORS—」、「あみきやら横丁inさばえ」)
- ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 18,595人[C]

8. 市民が一体となった「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」開催の推進

全国から参加する選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、競技会場の設計・設営、宿泊施設の確保や輸送交通対策、競技会場や練習会場となる施設周辺の美化整備など、円滑な競技会運営に万全を期します。また、選手の活躍を最高のおもてなしで後押しできるよう、関係機関と連携しながら、各競技会場での振る舞い、花プランターなどの歓迎装飾、ボランティアスタッフや市職員を中心とする温かいことばのおもてなしなどの取り組みを進めます。

◆ 国体競技会場への一般来場者数 (体操競技、新体操、なぎなた)	15,000人
◆ 協賛企業件数	30件
◆ 競技会場等歓迎装飾用 花プランター育成取組み数	700プランター
◆ ボランティアスタッフ起用数 (体操競技、新体操、なぎなた)	延べ400人

【成果等】 目標を達成しました。

選手や来場者の立場に立った会場設営、宿泊・輸送の実施など、ボランティア・実施本部が一体となって大会に臨み、円滑な競技運営を実現することができました。また市民運動の盛り上がりにより、温かい振る舞いや花による会場装飾など、鯖江独自のおもてなしの詰まった会場に多くの来場者をお迎えすることができました。

◆ 国体競技会場への一般来場者数 (体操競技、新体操、なぎなた)	20,719人[A]
◆ 協賛企業件数	46件[A]
◆ 競技会場等歓迎装飾用 花プランター育成取組み数	1,420プランター[A]
◆ ボランティアスタッフ起用数 (体操競技、新体操、なぎなた)	延べ387人[A]

9. 全ての市民が豊かさを実感できる鯖江型の生涯スポーツ社会の推進

総合型地域スポーツクラブや開放学校など、鯖江の恵まれたスポーツ環境を活用し、市民が健康でいきいきとスポーツに親しめるまちづくりを目指します。また、出前講座やスポーツ教室・障がい者スポーツ教室などの開催、いつでもどのようなスポーツイベントが行われるかがわかるスポーツカレンダーなど、幅広いスポーツ機会とスポーツ情報の提供に努め、誰もが生涯を通してスポーツを続けられる社会を推進します。

◆ スポーツ施設等の利用者数	36万人
◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数	2,200人
◆ スポーツリーダーバンク登録指導者数	50人
◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域 スポーツクラブの加入率	40.0%
◆ スポーツ・健康教室、出前講座の開催	130回 2,000人
◆ スポーツ交流イベントの開催	15回 6,000人

【成果等】 目標を概ね達成しました。

(一社)鯖江市体育協会やその加盟種目団体、総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ推進委員、市スポーツ少年団等の各種イベント事業や開放学校での活動などを通じて、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組む機会を幅広く提供し、生涯スポーツの推進に努めました。

◆ スポーツ施設等の利用者数	33万人[B]
◆ 総合型地域スポーツクラブ会員数	2,012人[B]
◆ スポーツリーダーバンク登録指導者数	40人[B]
◆ 小学生のスポーツ少年団および総合型地域 スポーツクラブの加入率	33.6%[B]
◆ スポーツ・健康教室、出前講座の開催	161回 3,092人[A]
◆ スポーツ交流イベントの開催	16回 8,510人[A]